



# 徳島市民病院だより

徳島市民病院の理念  
「思いやり・信頼・安心」

令和8年4月

46号

〒770-0812 徳島市北常三島町 2丁目 34 番地 徳島市民病院広報管理室 TEL (088) 622-5121 (代表)

## 院長就任のご挨拶

徳島市民病院 第21代院長 日野 直樹

地域の皆様、ならびに連携医療機関の先生方には、日頃より徳島市民病院の運営に多大なるご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

当院は、「思いやり・信頼・安心」という理念のもと、患者さんや地域の先生方、そして病院スタッフをはじめ、誰からも信頼される病院を目指しています。公的医療機関として、急性期医療、地域医療、災害時医療を基盤とし、地域の皆様に「ここに在って欲しい、在ると安心」と思っただけの中核病院としての役割を果たすべく、日々病院運営に取り組んでまいりました。ポストコロナで通常業務へと移行して間もなく3年になりますが、一時期落ち込んだ急性期病床の稼働率向上や救急患者受け入れの更なる強化に努め、徳島大学からの救急医派遣の協力も得て、2025年は救急車の年間受け入れ数が3381件となるなど、着実な成果を上げております。



院長 日野 直樹

また、当院の柱である「3つのセンター」も確実な実績を積んでおります。中でも、私自身が外科医として長年最前線で携わってきた「がん治療」におきましては、当院の「がんセンター」が地域の中核的な役割を担っています。各領域の専門家が連携してチーム医療を行っており、前立腺がんや大腸がん、肺がん、婦人科がんなどにはロボット支援手術システムが用いられ、2025年は110件の手術が実施されました。緩和ケア病棟も備えており、あらゆるがん治療の状況に対応出来る施設となっております。患者さんお一人おひとりの不安に寄り添い、質の高い包括的ながん診療を実践していくことは、乳がん治療を行ってきた私の強い願いでもあります。

地域周産期母子医療センターでは無痛分娩が開始され、2025年は100件を超えるようになり、分娩数全体も増加しました。関節治療センターではナビゲーションやロボットアームを用いた人工関節手術が過去最高の620件を記録するなど、各分野で充実した専門医療を提供しております。

さらに、地域における役割分担を踏まえて回復期病棟を機能転換し、パンデミックに対応可能な感染病棟を整備したほか、大規模災害に備えて簡易トイレを含む備蓄品を拡充するなど、有事の即応体制を強化しております。地域医療のセーフティネットとしての機能や災害医療体制の構築を進めつつ、徳島大学をはじめとする様々な医療機関と連携して県内医療を支える若手医師やスタッフを育成することで、持続可能な医療の実現に貢献してまいります。

医師の高齢化や働き方改革、人手不足、物価高騰など厳しい経営環境の中ではありますが、タスクシフトや医療DXの積極的な導入により業務の最適化を図り、誰もが働きやすい環境づくりに努めてまいります。スタッフ一同が利他と恕（思いやり）の心を持ち、連携医の先生方と協調しながら徳島の医療を支え続けていく所存です。

本年度も、徳島市民病院をどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 経営健全化推進会議 開催

2月19日、医局カンファレンスルームにて徳島市民病院経営健全化推進会議が開催されました。本会議は「徳島市民病院経営強化プラン（令和5年度～令和9年度）」の該当年度の進捗状況を外部委員に評価していただき、当院の運営状況を振り返るために開催しています。外部委員を含めた10名と事務局が出席し、会長を上原 克之 徳島大学大学院准教授、副会長に宇都宮 正登 徳島市医師会会長を互選し議事に入りました。

経営強化プランの各項目の実績と自己評価について、中野 俊次 院長（令和7年度時点）と八幡 建志 病院局長が順次説明する中、委員からは忌憚のない質問や意見があり、「関節手術や無痛分娩など市民病院の特色を活かした医療に感謝の声を聞いている」、「初期臨床研修医のフルマッチが継続しており、十分な研修医を確保していることは評価できる」等の声をいただきました。また、「市民病院には地域の中核病院として、厳しい経営環境下にあっても医療を継続できるよう、医業収益となる医療も積極的に行い、安定した病院経営を目指していただきたい」という言葉に対し、中野院長は「地域に求められる医療を継続的に提供するため、職員間の結束と他院との連携を強化し、収益性をさらに向上できるよう取り組んでいきたい」と回答しました。

本会議の議論を基に上原会長が報告書を作成し、各委員が確認後、3月に三宅 秀則 病院事業管理者へ答申が行われました。（医事経営課 泰地 涼風）



経営強化プランの実施状況について説明後、活発な質疑応答が行われた

## 救急患者受入連携会議 行われる

井野口卓内科診療部長  
低血糖の症例について説明する



2月26日、市民病院の3階会議室において徳島市消防局との救急患者受入連携会議を開催しました。会議冒頭では、宮本理司 救急室総括部長より当院の救急車受入実績や現状の課題等に関する説明が行われました。

続いて、井野口卓内科診療部長兼救急室副室長から「低血糖について～症例提示も含めて」と題し、当院の現状に基づいた症例発表が実施されました。消防局からは津島 教男 警防課担当課長補佐より「消防からみる徳島市の救急」と題した講演が行われました。

その後の意見交換会では、実際に現場対応を行う消防局の救急救命士よりご意見を含めた様々な問題提起をいただき、当院医師と真剣に意見を交わしあうととても有意義な場となりました。

今回より、院外の参加者についてはWEB参加も併用し、計33名と多数の参加となりました。院内からも32名の参加があり、救急医療の重要性が再確認できました。今後も「顔の見える関係」を継続していくため、令和8年度からは年度内2回の開催を予定しております。（医事経営課 梶村 知弘）

消防局からは津島 教男  
警防課担当課長補佐が講演



## 感染管理特定認定看護師資格を取得

このたび、2024年度に感染管理特定認定看護師教育課程を修了し、2025年度に認定資格を取得いたしました。研修期間中は多くの皆さまにご支援・ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

感染対策の原点は、約180年前「感染制御の父」とも呼ばれる産科医であるイグナツ・ゼンメルワイスが、手洗いの徹底により産褥熱による死亡率を減少させたことにあります。近年は抗菌薬の不適正使用を背景として、薬剤耐性菌（AMR）の問題も深刻化しており、対策を講じなければ2050年には感染症による死亡者数のがんを上回るとも予測されています。こうした中、抗菌薬の適正使用に加え、手指衛生や個人防護具の適切な使用などの標準予防策を徹底し、耐性菌を「増やさない・広げない」ことが重要です。



当院は感染対策向上加算Ⅰを取得し、専従者が院内外で感染対策を担い、医療の基盤を支えています。私はこの春より病棟に戻り、現場と専従者をつなぐ架け橋として、限られた時間の中ではありますが、学びを還元しながら当院の感染対策の向上に努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

（看護部 近藤 亜矢子）



感染管理特定認定看護師資格を取得  
近藤 亜矢子看護主査

特定認定看護師とは…日本看護協会が認定する高度な専門知識・技術に加え、厚生労働省の「特定行為研修（特定行為に係る看護師の研修制度）」を修了した看護師のことです。医師があらかじめ作成した「手順書」に基づき、一定の医行為（特定行為）を自律的に実施することができ、患者さんへより迅速なケアを提供することが可能です。

### ◆ 研修医日記 ◆

臨床研修医の皆さんに、医師を目指すきっかけや印象深い経験、これからの目標についてなど自由に語っていただくリレー企画です。

初期研修医2年目の山本 雄太と申します。生まれも育ちも徳島市で、徳島大学を卒業し、現在は徳島市民病院で研修をさせていただいております。これまで過ごしてきた徳島市の医療に少しでも貢献できるよう、日々知識や技術を身につけていきたいと思っております。

体を動かすことが好きで、小学校ではサッカーのクラブチームに所属し、中学校ではサッカー部に所属していました。大学ではフットサルサークルに入り、仲間とともに汗を流しながら楽しい時間を過ごしました。サッカーやフットサルを通じて学んだチームワークの大切さは、医療の現場でも活かされていると感じています。

一方、最近はプレーする機会は減りましたが、観る側としてサッカーを楽しむことが増えました。休日はラ・リーガやプレミアリーグなどの海外サッカーを観戦することが多いです。学生時代はプレーを通して気分転換していましたが、今は観戦することでリフレッシュしています。翌日が早い日でもつい夜更かししてしまうこともありますが、それも含めていい息抜きになっています。

初期研修が始まり、早くも1年が過ぎました。先生方をはじめとする医療スタッフの方々から優しく丁寧に指導していただきのおかげで、日々多くの学びを得ながら充実した研修生活を送ることができています。

まだまだ未熟なところばかりですが、2年間の研修医生活で少しずつ成長できるよう努力していきたいと思っております。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

（初期臨床研修医 山本 雄太）

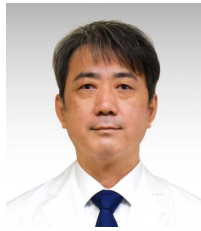


# 新任医師、臨床研修医ご紹介



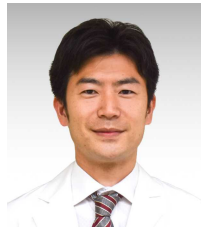
内科 医長  
小路 貴俊

【専門分野】リウマチ・  
膠原病内科、呼吸器内科



外科 総括部長  
森根 裕二

消化器外科 (特に肝胆脾外科)  
肝臓切除に対する低侵襲手術ほか



外科 主任医長  
石川 大地

消化器外科



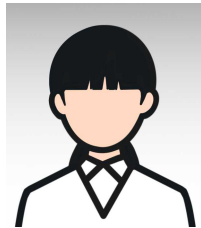
外科 医員  
杉本 花奈乃

乳腺外科



整形外科 医員  
阿部 勇人

整形外科一般



小児科 主任医長  
本間 友佳子

【専門分野】小児循環器、  
小児科一般



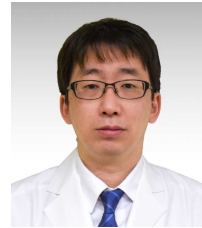
産婦人科 主任医長  
香川 智洋

産婦人科全般、腫瘍



産婦人科 医長  
谷口 実佑

産科婦人科



耳鼻咽喉科 主任医長  
大西 皓貴

耳鼻咽喉科・頭頸部外科



放射線科 主任医長  
庄野 芳子

放射線画像診断



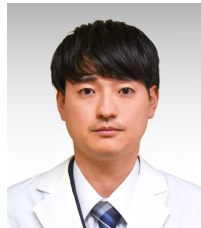
放射線科 医員  
下村 真奈

【専門分野】放射線科



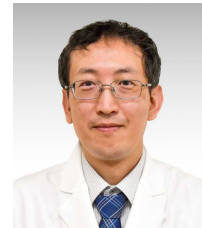
麻酔科 医員  
駒坂 みずき

麻酔科



麻酔科 医員  
三倉 健太

麻酔科



腫瘍精神科 診療部長  
多田 幸雄

精神医学



臨床研修医 (1年次)  
谷岡 大輔



臨床研修医 (1年次)  
市橋 瑠奈



臨床研修医 (1年次)  
澤田 晴奈



臨床研修医 (1年次)  
福永 翼



臨床研修医 (1年次)  
杉浦 舞



臨床研修医 (1年次)  
山本 忠陽呂



臨床研修医 (1年次)  
平野 和樹

徳島市病院局は4月1日付で人事異動を発令しました。採用医師14名、臨床研修医7名、計21名が着任しています。医師の主な昇格については以下のとおりです。(旧任：新任の順に記載)

▽**内科** 橋本 年弘総括部長 兼 がんセンター長：副院長 兼 がんセンター長、河野 智仁診療部長：総括部長、手塚 敏史主任医長：診療部長 ▽**整形外科** 中山 祐作医長：主任医長 ▽**産婦人科** 山本 哲史総括部長 兼 地域周産期母子医療センター長：副院長 兼 総括部長 兼 地域周産期母子医療センター長 ▽**耳鼻咽喉科** 戸田 直紀診療部長：総括部長 ▽**リハビリテーション科** 江西 哲也主任医長：診療部長 ★新体制となりました徳島市市民病院を、今後とも何卒よろしくお願ひいたします。